

授業に関するアンケート（2017 年度秋学期・学部） 実施結果に対する授業評価報告

- ・授業アンケート結果の数値や「教員コメント」に基づいて、学科等の総括を概ね 4 ページ以内でご記入ください。
- ・原則として、すべての項目にご記入ください。
- ・可能な限り、箇条書きでご記入ください。

学科等
食物栄養科学科

（1）授業実施に関する質問結果について

1. 授業内容はシラバスに合っていましたか。
・概ねシラバスに合っているという結果であったが、多少科目により評価に差があった。 ・応用科目では、シラバスから発展させた内容もあったためか、シラバスに合っていないと評価された科目もあった。 ・1 回目の授業でシラバスを配布し、授業の流れを説明すると、シラバス記載に基づく授業の進め方への理解がほぼ得られた。 ・教職関連の科目では、少人数であったことから変則的にアクティブラーニングを取り入れたため、シラバスと異なったが、その都度学生と相談して進めることができた。 ・卒業論文に関しては、研究テーマの進行状況に応じた指導となるため「わからない」という回答が多くなった。
2. 受講生の理解度を確かめながら授業が進められていましたか。
・実験・実習や卒業論文については、個別対応が可能なため、個々の理解度を確かめやすく思うという回答が多くなるが、講義では、どうしても行き届かない部分があり、そう思う、の回答が減少する傾向がみられた。 ・講義科目でも小テストやレポートにより理解度を確認しながら授業を進めるようにすると、ほぼ全員が「そう思う・ややそう思う」という回答をしていた。 ・各学生の理解度の差に配慮する必要がある。
3. 授業レベルは自分に合っていましたか。
・講義では、理解度の把握が不十分だと感じた受講生が自分のレベルにあっていると思えなかったと理解している。 ・「自分に合っている」とする授業レベルが長い目でみたとき、教育上いいとは限らない。授業レベルを下げるのではなく、学生も高いレベルにチャレンジする意欲をもちたいものである。 ・概ねそう思う、となっていた。一部やはり講義科目でそう思わない以下の回答が見受けられた。どのようにあっていたのかでできれば回答してもらえるとありがたい。 ・低学年科目ほど評点が低く、高学年では上昇した。互いに関連しながら系統的に積みあがる「学び」の特徴であり、かつ高学年での授業ほどアクティブラーニングの要素が増すからだろう。
4. 教員からの一方向的な授業ではなく、教員と受講生又は受講生同士の双方向性に工夫がされていましたか。
・科目により差があった。国家試験に必要な知識を教える科目で評価が低く、応用科目で評価が高いのは仕方ないのではと思う。 ・実験科目では双方向の授業がしやすいが、講義科目ではなかなか難しい。 ・授業・実習中の学生への問いかけや課題にコメントをつけて返却する、マナビーの活用など、学生と積極的にコミュニケーションを取るようしており、学生も評価してくれていた。 ・講義では、講義中の質疑応答やコメントシートに記載された質問への回答などを実施したことが、双方向性として理解されたようだ。 ・理系科目は短時間に多くのことがらを取り上げ、解説し、理解させなければならない。授業時間中にどれほど待ちの時間を割けるのかはむずかしいところである。 ・講義科目でキーワード抽出やグループワークを少し取り入れた部分が工夫されたと評価されたのかもしれない。 ・実験科目では双方向の授業が進めやすいため、「そう思う」「ややそう思う」の回答はほぼ 90%以上であったが、講義科目ではクラスによってのバラツキもあるが 40～60%であった。時間的な制約もあり難しいが、さらに工夫したい。

5. 提出物に対するフィードバック（採点、添削、マナビーでのコメント、チェック後の返却など）は効果的に行われていましたか。 ・課題にコメントをつけると学生の反応が良かった。 ・小テストやレポートの採点結果をマナビーで告知することで、自己学習（授業外学習）につながると思っていたが、直接的に効果は見られなかった。 ・講義、実験・実習両方とも、学科平均より値が高かった。復習問題の模範解答を次週に提示したり、実験レポートの一部を採点見本として授業内で返却しているためと思われる。 ・小テストの結果を返却しておらず、どこを間違えたか分からないという意見があった。返却するように努めたい。 ・卒業演習であまりそう思わない以下の回答が意外に多かったことは驚きである。常にフィードバックし、必要な場合は面談まで行っているため、その指導は学生にとってはフィードバックという認識がないのかもしれない。 ・「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」が同数の 30%だったので、学生間で思いの違いを理解した。 ・実験科目では、毎回レポートを添削後、翌週、訂正箇所コメントをつけて返却し、再提出を求めた。このため、実験レポートの書き方を向上させることができ、「そう思う・ややそう思う」で 100%という好評価に繋がった。 ・講義科目では、小テスト直後の解答・解説と翌週の採点結果（平均点と得点分布）報告に留まったため、「あまりそう思わない」も 10%程度あった。
6. 言葉による説明だけではなく、受講生の理解を促進する工夫がなされていましたか。 ・実験では良好であったが、講義ではやや低い値となった。例年より低かった理由を考えてみたい。 ・毎回ではないが、ビデオを用いるなど教材の工夫は行っている。講義では、その工夫があまり伝わっていないように感じる。 ・マナビーの授業アンケートを毎回開催し、質問などについてもそこで答えていたのでおむね高かったと考えられる。 ・学生によって、受け止め方も異なるので、理解を促進するためには、多様な方法を活用する必要があると感じた。 ・卒業演習ではかなりの工夫をおこなっている。しかし、あまりそう思わないという学生がおり、こちらの思いが伝わっていないということが分かった。何のためにこの作業をしているのか、考えてほしいと思う。 ・講義科目ではプリント配布や資料をプロジェクター提示するなどして理解を深めるように工夫したため、概ね工夫していると回答されていた。 ・実験科目ではわかりにくい操作を前でデモンストレーションしたり、実験中に個別に指導したため、好評価であった。
7. 自主学習を促す工夫がなされていましたか。 ・授業においては、マナビーを活用して自己学習とその経過報告を積極的に勧めたところ、学生の自己学習が促進された。 ・事前の予習や授業後の復習を必要とする展開にしていたため、自主学習を促すことができたと思われる。 ・講義科目ではノート提出、実験科目ではレポート作成があるため自主学習を促すことが出来ていたと考えられる。 ・実習科目では低学年だとあまりそう思わないという回答がちらほらあるが、高学年ではほとんどがそう思うと回答し、実習レポート作成の意味などが低学年では十分に伝わっていないと思われた。 ・卒業演習では多くの課題があり、課題にも工夫をこらしており、自主学習をしなければならない状況であったはずだが、あまりそう思わないという回答があったことはいかがなものか。課題の意味を理解してほしい。 ・「卒業論文」以外では、学科等および全学平均値より高評価であった。定期試験以外に、宿題や課題レポート、クリッカーテスト、キーボードテスト、技能テスト、実験レポート、創作課題、発表などが定期的に設けられていたからだろう。
8. 工夫してほしいと思ったことを選んでください（複数選択可、なしも可）。 ・パワーポイントを直前に変えるのをやめてほしいという意見があった。 ・講義科目の教科書の選定を今後検討したいと思っている。 ・このアンケートには、ここは工夫している、ここはよかったなどを聞く項目がないのが残念。 ・パワーポイントが多く挙げられていた。できればパワーポイントに頼ることなく、理解してもらいたい。 ・「情報処理Ⅰ」の「パワーポイント等」「話し方」が 21.9%選択されていた。早口や専門用語頻発のためと思われる。 ・「食品物性学」の「パワーポイント等」が 26%選択された。パワーポイントの使いすぎには注意しようと思う。 いずれの科目も「パワーポイント等」が 10～20%あった。板書の指摘も 1 件あった。見せ方への検討を要する。

(2) この授業の学修行動に関する質問結果について

9. この授業の予習、復習、自主学習に1週当たり平均どれくらいの時間をかけましたか。 ※学内外を問わず授業に間接的に関係のある学習を含む。ただし、授業時間は除く。
・授業に関して、学修時間は少な目だったと思うが、他の教科（実習等）の課題の兼ね合いも考えられ、次年度も小テスト等で学生の理解度を判断しながら学生に関わっていききたい。 ・実験は例年通り時間が長かったが、講義科目がやや少なく、今後の検討課題である。 ・講義は、いずれもそれなりに提出物があつたにも関わらず、30分未満の学生が多かった。しかし、単位修得率から考えると、最低限のすべきことはできていたのではないかと考えている。 ・実習科目はレポートがあるため時間が多いことは納得であるが、30分未満と回答した学生は質問の主旨が理解できていなかったのかもしれない。講義科目では半数近くが30分未満であり、小テストがなければあまり勉強しないことがよくわかった。マナビーなど利用して自主学習できる何かを考えたい。 ・卒業演習で30分未満というのはかなり信じがたい時間である。なぜこのような回答が存在するのか、質問の主旨が理解できていないのか、よくわからない。 ・「実験」や「卒論」では圧倒的に多いが、講義科目では少なかった。 ・講義科目は時間が少なかった。小テストや定期試験前だけでなく、日ごろの予復習時間をもっと取るよう促していきたい。
10. あなたはこの授業に関して積極的に意見を述べたり質問をしたりしましたか。
・授業中に意見を述べた学生が標準的におり、授業中に意見を言う雰囲気づくりが功を奏したと思われる。 ・講義科目では、質疑応答はあるが意見を述べる場面は少なく、低い値になった。その他はおおむね良好であった。 ・発言、発表の機会を設け、学生の発言を授業の目的につなげ、それを評価できたことで、学生の積極性を引き出せたと思われる。 ・講義では、あまりグループワーク等の時間がとれていなかったのも、機会作りをする必要があると感じた。 ・実験科目では意見を述べる機会も設けているので個人差はあるが、「そう思う」「ややそう思う」の回答も多いが、講義科目ではこちらから問いかけ意見を述べる機会を作っても反応が乏しい。 ・講義科目では時間がなく、意見を述べてもらう時間を取るの難しかった。
11. あなたはこの授業の分野又は関連分野の学習を更に深めたいですか。
・学生はどうしても国家試験対策に固執しがちで、学修を深める（応用まで学修する）より、国家試験を楽に解けるようなスキルを望みがちであった。 ・マナビーを活用して、学生が自ら考え、自分の意見を発信し、評価を受ける課題を出したところ、学生の知的好奇心を刺激したようであった。 ・教職科目では良好であったが、その他の科目では少し学科平均より低めの値であった。 ・講義科目も実験科目も必修もしくは資格必修の科目として履修していた割には、内容に興味を持っている受講生がいたことはありがたい。 ・全ての科目が専門科目のため、深めたいと思う学生がおおかったと思われる。 ・実験科目では評価が高かったが、講義科目では科目によりばらつきがあった。
12. あなたがこの授業を履修した理由は何ですか（複数選択可）。
・卒業必修科目であり、国家試験科目である。 ・ほぼ必修や資格が理由であったが、卒論では授業内容も多かった。 ・教職関連科目以外は必修であった。卒論については、SKにとって選択であったが「内容」という評価が多かった。 ・管理栄養専攻の科目なので、圧倒的に必修であるからを理由に挙げる者が多かった。本専攻にはこの質問は、合わないと考える。 ・「食品物性学」では「授業内容」の評点が低く、高学年の実験・研究科目では上昇した。

(3) この授業の到達目標に関する質問結果について

13. 到達目標を達成しやすいように指導がなされていましたか。
・授業に関して、レポートや資料配布・小テストが効果的にできていたと思われる。 ・実習に関して、個人指導ができたことが評価されていたと思われる。 ・実験、教職科目はおおむね良好であったが、講義科目がやや低い値であった。 ・クラスによって受け止め方に違いがあると感じる。 ・わからないという回答があった。シラバスのみならず講義で、何のためにこの講義を受けているのかを自覚できる工夫が必要だと感じた。 ・講義科目は「そう思う・ややそう思う」が 88%、97%と結果に開きがあった。指導方法は同じなのに結果が異なったのは、科目特性による学生の感じ方の違いかもしれない。
14. あなたは到達目標を達成できたと思いますか。
・実験ではおおむね良好であったが、卒論や教科教育法、講義科目ではやや低い値であった。 ・到達目標の達成は講義科目の場合は自身の自主学習時間とも関連していると考えられるため、これから講義の中で自主学習の仕方などについても教えていきたい。 ・定期試験前のアンケートなので、学生も未確認状態のように思われる。 ・学科等および全学平均と比べると、低学年講義科目では同程度か低く、高学年の実験・研究科目では高かった。 ・「そう思う」「ややそう思う」の合計が 70～90%だったが、担当教員の多い科目に関しては約 30%あった。
15. DWCLA10 の内、この授業の履修を通してその獲得や向上に役立ったと感じられるものをすべて選んでください (複数選択可、なしも可)。
・思考力やプレゼンテーション力、コミュニケーション力など教科特性に合った力がついていることを学生は感じてくれていた。 ・リーダーシップや思いやる力、自己実現力もつけて欲しいので、力を実感できる体験ができるように実習や演習を工夫したい。 ・3年生以上の授業や実習では「分析力」「思考力」が高くなっており、カリキュラム上望ましい結果であった。 ・実験科目では「分析力」「思考力」「コミュニケーション力」「思いやる力」「自己管理能力」の回答が多く、講義科目では「分析力」「思考力」が多かった。 ・低学年講義科目では「分析力」や「思考力」の評点だけが高かったが、高学年の実験・研究科目では他の全ての項目で選択率が上昇した。 ・学生の発表時間を設けたので「プレゼンテーション力」の向上が最も多い 70～80%だった。知識と知識の関連性を思考して繋ぐ能力を高めて欲しいので 30%であった「思考力」を高める必要性を理解した。

(4) その他

・春学期には各項目での学生の記述が思ったより多くあったという印象を持ったが、秋は少なくなったと感じた。新しい形式に替わった直後に比べ慣れが生じたせいなのか、クラスにより性格が異なるのかは判別がつかなかった。さらに、授業中の発言や提出レポートから感じられたことを改善し、授業や実習内容をブラッシュアップしていきたい。 ・すべての科目で自由記述欄への記入がほとんどなかった。また、回答率が 86.8%と低い科目もあった。この科目は、小テストの自由記述欄への対応が長引き、アンケート記入時間が十分に取れなかった科目である。アンケートをこれまで最終回の授業の終わりに取るようにしていたが、取る時期を再考する必要がある。
